

分科会趣旨

第1分科会

時代に求められる介護福祉教育

急激に進展する少子高齢化やグローバル化に伴う、介護分野における多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材の育成や介護福祉士に係る制度の改正への対応などを考慮し、福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を確実に習得させるための「現状」や「課題」について考えていきたい。

第2分科会

介護過程の展開

－ アセスメントの教育方法 －

2009年の介護福祉士養成教育カリキュラム改訂で「介護過程」が150時間を有する主要な教科として位置づけられた。新カリ（当時）の特徴として、養成校の裁量の幅が広く、各養成校は試行錯誤しながら、養成校独自のアセスメントシートを作成し教育しているのが現状である。介護過程教育の中で、「学生はアセスメントが不得意」「介護過程の中でアセスメント教育が最も重要である」との研究報告が散見される。

第2分科会では、介護過程のアセスメント教育に焦点をあて、学生のアセスメント力向上のために今後どのような教育を行っていくべきかを探る機会としたい。

第3分科会

多様な学生への教育上の支援のあり方

少子高齢化、働き手不足が進む中、介護福祉士を志す若者を大切に教育したいと思うのは、皆同じであろう。また、個性を大事にする教育も進み、多様な学生を受け入れなければならない現状もある。特に発達障害の特性のある学生への教育上の支援のあり方はどのようにあるべきか。一般的に発達障害の学生はコミュニケーションが苦手であり、ヒューマンサービスを主体とする介護現場では、非常に頭を悩ませる場面がある。提供していただいた事例を元に議論を深めたい。

第4分科会

介護人材の確保・養成に向けた取り組み

－ 養成施設と介護福祉施設との連携の在り方をめぐって－

数年後に迎える2025年を控え、これまでの人材確保・養成に向けた国の施策として、介護職員の処遇改善、多様な人材確保・育成さらに離職防止、職場定着促進、介護職の魅力向上、外国人の受け入れ環境整備等を実施されているが、介護現場においては、地域格差はあるものの介護人材の量的不足や質的な低下が深刻度を増している。

一方、養成施設においては、入学希望者の減少に対応して介護職を目指す学生の確保の課題、多様な学生への支援と教育の課題と、新しい介護福祉士の養成にどのように取り組むか、養成教育の在り方が問われている。

本分科会では、このような現状を踏まえ、今後の養成施設と介護福祉施設等とが連携して取り組む介護人材の確保・養成のあり方について考える。

※本研修会では、第1、2、3分科会での発表者を募集しております。